

## 感染症情報 7月24日～30日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①手足口病	1858例(堺市 119例)
②感染性胃腸炎	884例(堺市 48例)
③ヘルパンギーナ	421例(堺市 19例)
④溶連菌感染症	344例(堺市 15例)
⑤RSウイルス感染症	282例(堺市 11例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	22例(堺市 1例)
---------	------------

が報告された。

感染症報告数は前週から5.8%減の4,263件であった。報告の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、溶連菌感染症、RSウイルス感染症の順であった。

1位の手足口病は府下で前週比22%減、堺市でも前週比22%減であった。定点当たりの報告数は前週11.9→今回9.3となり、さらに下がった。2位の感染性胃腸炎は府下で前週比14%増、堺市で23%増であった。ヘルパンギーナが府下で前週比9%増、堺市で21%減であった。溶連菌感染法は府下では前週から7%減、堺市では前週20例→今回15例であった。RSウイルス感染症は府下で前週比48%増、堺市では前週3例→今回11例で増加傾向にある。昨年同時期より多く推移しており、9月頃に昨年以上のピークがきそう(2016年第30週の定点当たり0.4に対して、今年の第30週は1.4)。

インフルエンザは府下では前週22例→今回22例で同数であった。堺市では前週0であったが、今回再び1例報告された。

麻疹や風疹の報告はなかった。